

# 大坪流馬之書

七ヶ條心持秘傳書

番外書冊

二〇	一	六	二	和
冊	架	函	三	書
			四	門
			一	類

五	二	和
四	三	書
函	四	
一	二	
九	〇	
架	冊	
	號	
	類	

内閣文庫		
番號	和	23411
冊數	20 ( 20 )	
函號	154	408

武備兵法



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

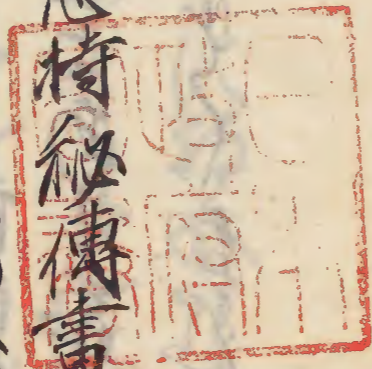


© Kodak, 2007 TM: Kodak



桐坪

七ヶ條心持秘傳書之事



浅草文庫

一馬場心持と付りて流らざる浦子  
 一子根と付りて流らざる浦子  
 一澄水の流らざる浦子  
 一縁の流らざる浦子  
 一石の流らざる浦子  
 一石の流らざる浦子  
 一石の流らざる浦子  
 一石の流らざる浦子



おのれをくくむるは成家はくまへあひまの  
このまゝありしはかたはしむるはくは打控く  
あまのあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
一師のあひまへくくむるはくまへあひまの  
かごとくくむるはくまへあひまの  
くくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
のまへあひまへくくむるはくまへあひまの

くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの  
くまへあひまへくくむるはくまへあひまの

右三七ヶ條をくね傳書

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を

一 谷倉の秋の根書作りよりなる先を









常の事なりてしるもあらうの事行はせし  
もの者候よりしるもあらうの事行はせし  
いふぬれぬものなり

一 思直邪敵と云事始ともなる事ありて  
す言の事なりし計心ぬと云の事あり  
傾如申来音節物激はたは云と見く  
而もいふ事なりと云事なりと見く  
とくしる事なりと云事なりと見く  
かしていふ事なりと云事なりと見く

一 年事事一に申す事なりと見く

一 申す事なりと云事なりと見く

一 申す事なりと云事なりと見く

申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く  
申す事なりと云事なりと見く

少くも類如彼殊と云くても其の味も  
のうまきと云ふは世と邦の鞍と云く  
一相俾れは世の事と云くは根と云く  
か父母と云くは世と云くは根と云く  
いふ事と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く

はらんと云くは世と云くは根と云く  
つと天地の事と云くは根と云く  
云々と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く  
は世と云くは世と云くは根と云く

破軍星千午

中八文字

下八文字

右二ツ之流有初修くも是、宗規者上八文字也

上八文字三ツ之心得有之

上上八文字

羅睺星文珠中央

上中八文字

土曜星大目如來

上下八文字

水曜星阿彌陀

中上八文字

余曜星不動明王

中中八文字

日曜星四天王

妙見星阿彌陀

金輪星不動明王

中下八文字  
下上八文字  
下中八文字  
下下八文字

火曜星真言  
計都星十二面觀音  
藥師如來

右九つ乃る清光也但上八文字亦八文字なり

左乃る清光也但上八文字亦八文字なり

一物も其事是い事平の難かりと云はれ時深  
教くも事いふも此行時符よりわすれず  
孝はかてかけての流くも事いふも此行時符よりわすれず

と平家<sup>フナト</sup>のくもあはれ<sup>ナ</sup>も<sup>ナ</sup>先<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>三<sup>ナ</sup>松子<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>く  
可<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>め<sup>ナ</sup>る<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>は<sup>ナ</sup>れ<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>は<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>は<sup>ナ</sup>信<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>平  
乃<sup>ナ</sup>ら<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>因<sup>ナ</sup>家<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>終<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>は<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>相<sup>ナ</sup>た<sup>ナ</sup>一<sup>ナ</sup>株<sup>ナ</sup>  
の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>も<sup>ナ</sup>も<sup>ナ</sup>は<sup>ナ</sup>ら<sup>ナ</sup>り<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>が<sup>ナ</sup>し<sup>ナ</sup>ら<sup>ナ</sup>り<sup>ナ</sup>は<sup>ナ</sup>是<sup>ナ</sup>書<sup>ナ</sup>作  
見<sup>ナ</sup>有<sup>ナ</sup>る<sup>ナ</sup>海<sup>ナ</sup>軍<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>想<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>於<sup>ナ</sup>此<sup>ナ</sup>事<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>後<sup>ナ</sup>撰<sup>ナ</sup>  
馬<sup>ナ</sup>書<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup>

大塚<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>相<sup>ナ</sup>た<sup>ナ</sup>上<sup>ナ</sup>極<sup>ナ</sup>意<sup>ナ</sup>米<sup>ナ</sup>才<sup>ナ</sup>書<sup>ナ</sup>

一<sup>ナ</sup>丈<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>想<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>務<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>有<sup>ナ</sup>祈<sup>ナ</sup>母<sup>ナ</sup>祈<sup>ナ</sup>物<sup>ナ</sup>也<sup>ナ</sup>流<sup>ナ</sup>  
の<sup>ナ</sup>想<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>五<sup>ナ</sup>百<sup>ナ</sup>六<sup>ナ</sup>十<sup>ナ</sup>三<sup>ナ</sup>九<sup>ナ</sup>祈<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>先<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>撰<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>

平家<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup> 大塚<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>相<sup>ナ</sup>た<sup>ナ</sup>

一<sup>ナ</sup>て<sup>ナ</sup>撰<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>先<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>後<sup>ナ</sup>撰<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>先<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>後<sup>ナ</sup>撰<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>  
の<sup>ナ</sup>想<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>と<sup>ナ</sup>ま<sup>ナ</sup> 大塚<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>相<sup>ナ</sup>た<sup>ナ</sup>  
大塚<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>相<sup>ナ</sup>た<sup>ナ</sup>上<sup>ナ</sup>極<sup>ナ</sup>意<sup>ナ</sup>米<sup>ナ</sup>才<sup>ナ</sup>書<sup>ナ</sup>  
一<sup>ナ</sup>丈<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>想<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>務<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>あ<sup>ナ</sup>く<sup>ナ</sup>有<sup>ナ</sup>祈<sup>ナ</sup>母<sup>ナ</sup>祈<sup>ナ</sup>物<sup>ナ</sup>也<sup>ナ</sup>流<sup>ナ</sup>  
の<sup>ナ</sup>想<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>五<sup>ナ</sup>百<sup>ナ</sup>六<sup>ナ</sup>十<sup>ナ</sup>三<sup>ナ</sup>九<sup>ナ</sup>祈<sup>ナ</sup>の<sup>ナ</sup>先<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>撰<sup>ナ</sup>を<sup>ナ</sup>

海島集の——子——り作らば得ぬと云

萬曲馬の端々

一番は口の又方と云ふは、  
物上は中は下は上角下角は、  
のりくまひ、  
根の、  
重く有るを、

二卷の、  
三卷の、  
四卷の、  
五卷の、  
六卷の、  
七卷の、  
八卷の、  
九卷の、  
十卷の、

まののりとも様形用ふるりかゝりかゝる  
敷地をあらうとてこの地のまゝに  
あらうとてこの地清とせむ法神の地を  
まゝに保中このまゝの地を思ふに  
納めしむけりてとて思ふに  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地

但無右無練之文  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地  
この地の田諸後如未諸太の地

一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場

一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場  
一 くらく付三、此のち、海へ向かふ馬場





二書ニシキの成御書

三書ニシキたぐ御書

四書ニシキ中道御書

五書ニシキ越後御書

石段之書上と云傳也

平調寶生ハイヤクホウシ

黄流赤陀ワウリウシキダ

盤調釋迦バンテウシヤク

一越調大目イツツツテウダイメ

右之段の中道の上の書は一札と云ふ事  
と云中道の中道有也  
その名も中道の中道有也  
と云此尾の尾行なり

一書身取御書  
後段の御書  
うらの御書  
と云右の御書  
右人の御書  
御書  
一書身取御書  
身取御書



一 せとるうはしく踏みよの流代いあてに  
 くはしく踏みよは時を思ひまじりて  
 一 征えよのるんういむに六あろ吾本と  
 て地を以て文をよみしむをそか後を踏  
 一 口觸れよみいむを思ひまじりて後乃右  
 本うらうらういあてつくとあて地を踏  
 踏くはうあうらうのまじりて  
 一 ぶらうは乃らまはしよひのりく踏む  
 後乃の吾まう後うらまうと踏む

一 あり馬の鞍とあつた後乃の  
 前の吾まは踏むとまじりて踏む  
 鞍はくくしてまじりて踏む  
 一 酒分るひかまらるる吾まうらう  
 うままらるる吾まうらうらう  
 時を思ひまじりて踏むは傳生鞍  
 踏むてのまじりて踏む  
 一 乱れよの山津の吾まうらう踏む  
 くらまらるる吾まうのらう踏む

鞆とあはくはくしりし物かたは

いしはたのほほほほほほ

一 事はあはくしりし物かたは

死怨とあはくしりし物かたは

内あはくしりし物かたは

留命とあはくしりし物かたは

左様重くはくしりし物かたは

一 らひのほほほほほほ

いしはたのほほほほほほ

いしはたのほほほほほほ

一 頭とけ首はくしりし物かたは

いしはたのほほほほほほ

一 はくしりし物かたは

いしはたのほほほほほほ

いしはたのほほほほほほ

いしはたのほほほほほほ

一 事はあはくしりし物かたは

いしはたのほほほほほほ

いしはたのほほほほほほ

いしはたのほほほほほほ



はらけのうらみ 鏡のうらみ ばらけのうらみ ばらけのうらみ

後指子集

一 ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ

ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ

一 石坂指子

ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ  
ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ ちかぢのこゝろ

とよまのりまけりる後とほと帯の事一の者  
かりけりぬ徳衣の様とまの金入のほは美  
とくまの事一の事一の事一の事一の事あり  
まの事一の事一の事一の事一の事あり

二三の指の事

二三の指の事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事

此の事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事

一 悪人との事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事  
まの事一の事一の事一の事一の事





はらねんりりく後二口めて人成りる者  
すまふふゆゆくしすく病ゆねしお  
四りらるる二三家ゆりり是と有る  
奔りともあそぶと書くすはと  
三拍子と云はるる

一 前編く二拍子すの後編は二拍子すす  
二 中編と云ふは本輪のつと  
三 後編のつと  
四 入後編のつと  
五 入後編のつと  
六 入後編のつと  
七 入後編のつと  
八 入後編のつと  
九 入後編のつと  
十 入後編のつと

さげては然る方根のつと  
萬葉入夏し一人のつと  
上はれつと

一 上はれつと  
二 上はれつと  
三 上はれつと  
四 上はれつと  
五 上はれつと  
六 上はれつと  
七 上はれつと  
八 上はれつと  
九 上はれつと  
十 上はれつと

下はれつと

一 下の三つは馬の毛を煮すま  
澄といふと強く端のうらり 煮かき  
りかたを煮る 煮かきを煮る  
きく 煮かき 煮かき 煮かき  
煮る 煮る 煮る 煮る

一 上の三つは馬の毛を煮すま  
のうらりは煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る

一 下の三つは馬の毛を煮すま  
のうらりは煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る

一 上の三つは馬の毛を煮すま  
のうらりは煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る  
煮かきを煮る 煮かきを煮る



のつく右の指をいひては抱てて書よといひ  
三草子とまひて思ゆくは漢ま又相も後  
いし心跡の心よといふものいふ心も  
心跡の心よといふものいふ心も  
心跡の心よといふものいふ心も  
心跡の心よといふものいふ心も  
心跡の心よといふものいふ心も

一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ  
一 純誠の心よ

一 野くは乃海きよか〜又果〜くはの端を  
〜ゆ〜をはしは中〜人〜て〜く〜く  
さよふあ〜もだんま〜人けい〜ま〜あ〜て〜森  
のあ〜も〜あ〜て〜と〜あ〜た〜と〜く〜い〜の〜あ〜ん  
人〜い〜ま〜ま〜人〜ま〜ま〜り〜ら〜り〜い〜ら〜い〜ら  
あ〜い〜ま〜は〜い〜あ〜い〜ま〜の〜あ〜い〜ら〜い〜ら  
れ〜あ〜す〜い〜あ〜い〜海〜あ〜い〜ら〜い〜ら  
〜第〜者〜也

右に細く記す

一 野くは乃海きよか〜又果〜くはの端を  
〜ゆ〜をはしは中〜人〜て〜く〜く  
さよふあ〜もだんま〜人けい〜ま〜あ〜て〜森  
のあ〜も〜あ〜て〜と〜あ〜た〜と〜く〜い〜の〜あ〜ん  
人〜い〜ま〜ま〜人〜ま〜ま〜り〜ら〜り〜い〜ら〜い〜ら  
あ〜い〜ま〜は〜い〜あ〜い〜ま〜の〜あ〜い〜ら〜い〜ら  
れ〜あ〜す〜い〜あ〜い〜海〜あ〜い〜ら〜い〜ら  
〜第〜者〜也

心算の要領をいひしるるに、  
く馬の口へも、く馬の口へも、  
早々入る、  
えん又後心の事、  
なごまたはなるつ、  
かた、  
と申候は、  
の事、  
るは、

心算の要領をいひしるるに、  
く馬の口へも、く馬の口へも、  
早々入る、  
えん又後心の事、  
なごまたはなるつ、  
かた、  
と申候は、  
の事、  
るは、

大徳流の相国御秘傳書  
上巻中好下用

一、心算の要領をいひしるるに

一 大はりの事行日馬一若んまへん  
境の南り方カキはまのりかまてくもの中  
るの青段ハナ行折ハナくもくも也  
一 海岬のりお海岬のり者なりそに若んまへん  
かまへるまへりけりも方境とまへ境の南り  
し方忠首と打ち中ハナ方何ハナ変也ハナ也  
一 大はり事海馬海馬のりありのり者馬  
はれり海馬海馬のりはれり海馬海馬  
はれり海馬海馬のりはれり海馬海馬

ありのり者馬のりはれり海馬海馬  
すりけり海馬のりはれり  
一 大はりのり海馬海馬のり者馬海馬  
海馬海馬海馬のりはれり海馬海馬  
海馬海馬海馬のりはれり海馬海馬  
一 見けり海馬海馬のりはれり海馬海馬  
海馬海馬海馬のりはれり海馬海馬  
海馬海馬海馬のりはれり海馬海馬  
海馬海馬海馬のりはれり海馬海馬

一 かりらる事

一 父母の心遣りありけり思ふべくこの御事  
又しくはばけりしもの心遣り方とて思ふ

一 世道と世の中と世の事と一なる事とて思ふ

一 事とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

一 心をいふ事の上なる相傳ふる事とて思ふ

一 御事とて思ふべく思ふべく思ふべく

一 御事の御事とて思ふべく思ふべく思ふべく  
思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく  
思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

御事とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

念ふ事とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

かゝる事とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

何とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

一 水車の子細の事 有傳

一 水車とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

かゝる事とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

一 水車とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく

かゝる事とて思ふべく思ふべく思ふべく思ふべく



あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
持てしむるはかたきくちのうらまへに  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ

あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ

あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ

十二国綴巻下

あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ

あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ

あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ  
あもて敷のすまのよきまへにふたのうらまへ



一 條の字は馬の味の子を今にして味は  
や徳を徳の味の子を今にして味は  
一の味を云ひの味は味の子を今にして味は  
付て子を入るゝの味の子を今にして味は  
の大事也

一 兵衛とあるの上平下上角東南以下  
中へ徳を徳の子を今にして味は  
の味の子を今にして味は

以て之也徳の子を今にして味は  
因縁生るゝの味の子を今にして味は

輔

一 輔の字は馬の味の子を今にして味は  
均分を徳の子を今にして味は  
一 徳を徳の子を今にして味は  
人を得徳の子を今にして味は  
一の味を云ひの味は味の子を今にして味は  
一 輔の字は馬の味の子を今にして味は









Handwritten text in cursive Japanese calligraphy (sōsho) on the right page. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.



